

ユズの系統選抜に関する研究 第3報 短刺系統の特性

杉本達哉・谷本 佑*・矢野臣祐*・田中満稔**

Study on Selected Strains of Yuzu (*Citrus junos* Sieb. ex Tanaka)

III. Characteristics of Short Thorn Yuzu Strains

Tatsuya SUGIMOTO, Yuu TANIMOTO *, Shinsuke YANO * and Mitsutoshi TANAKA **

要 約

県内で栽培されていたユズから、短刺系ユズ「高知果試選抜6号」(以下、「6号」、保毒カンキツトリステザウイルス(以下、CTV)「YM 6」)を選抜した。この「6号」をウイルスフリー化後、第2報で選抜した弱毒CTV(「YM 2」,「YM 3」)を接種し、「高知果試選抜7号」(以下、「7号」、保毒CTV「YM 2」)および「高知果試選抜8号」(以下、「8号」、保毒CTV「YM 3」)を作出した。これら3系統を、高知市朝倉(高知県農業技術センター果樹試験場)、安芸市入河内、香美市物部町頓定、高知市土佐山都網、四万十町昭和の5カ所に植栽して、樹体および果実の特性について調査した。

1. 春枝のトゲ長は「6号」、「7号」および「8号」が、既存優良系統である「高知果試選抜2号」(以下、「2号」)よりも短かった。トゲの発生は「6号」、「7号」および「8号」が「2号」よりも少なく、「6号」、「7号」および「8号」では「6号」が最も少なく、「7号」と「8号」は同程度であった。「6号」の短刺形質は遺伝形質の変化やエイジングの影響を受けたものと考えられた。
2. ステムピッチング(以下、SP)発生度は、「7号」が「2号」と同程度の発生度10以下、「6号」が発生度10~20、「8号」は発生度20以上で推移し、発生度30を超える年次もみられた。
3. 果皮障害(凸型こはん様症)の発生数は「6号」、「7号」および「8号」のいずれも「2号」と同程度で少なかった。
4. 果実着色期は「6号」、「7号」および「8号」が「2号」よりやや遅れる傾向であったが、その他の生態特性および果実品質に大きな差はみられなかった。

以上より、トゲが短くて少なく、SP発生度が低くCTVに対する干渉効果が確認された「6号」および「7号」が優良な系統であると考えられた。

キーワード：ユズ、カンキツトリステザウイルス、トゲ、こはん様症、ステムピッチング、干渉効果

はじめに

ユズは高知県を代表するカンキツ類であり、中山間地域における最も収益性の高い品目の一つである。県内の栽培面積と収穫量はそれぞれ859ha、14,051tと日本一の産地である²⁾。

ユズは青果用と加工用に分けられるが、いずれも

果皮を利用するために外観品質が高いことが求められる。しかし、ウンシュウミカンなど他のカンキツ類と比べて枝梢のトゲが長大なため果実が傷つきやすく、外観品質の低下や貯蔵中の腐敗果等を引き起こし問題となっている。さらに、CTVに弱く、強毒系統に感染すると、凸型こはん様症と呼ばれる果皮傷害、果実小玉化による収量性の低下が引き起こ

* 現中央東農業振興センター

** 退職